



(1) 2025年4月、社会学部が
深草キャンパスに移転

2025年4月、社会学部は深草キャンパスに移転する。移転と同時に、現行の3学科から1学科に生まれ変わる予定。学びの幅を広げる「総合社会学科」(仮称)を設置し、社会学と社会福祉学を統合した教学展開を行う予定である(設置構想中)。



(2) 2025年深草キャンパスが生まれ変わる
(2023年構想中)

深草キャンパスでは、多様性を象徴する「深草の森」をコンセプトに施設の整備を行う。学生、教職員、地域社会、そしてすべての市民に開かれたキャンパスをめざす。



(3) 新施設「STEAM コモンズ」

「ものづくり」と「デザイン」を通じた学生間の交流や、学生と地域コミュニティとの連携などを目的とした活動空間である。学部にかかわらず、科学 (Science)、技術 (Technology)、工学 (Engineering)、アート (Arts)、数学 (Mathematics) などに触れる活動ができる。



龍谷大学の社会貢献

「地域・社会・世界」の平和のために、様々な人や組織と連携しながら、社会にインパクトを生み出していく。それが、龍谷大学の社会貢献のあり方です。多様性を尊重し、人々とともに目の前で起きている課題と向き合い、ひたむきに努力し逆境に挑む。他者を思う共感力を原動力として、誰一人取り残すことのない社会の実現に寄与していきます。



そうしたなかで、身近な衣料品の購入が課題解決に貢献できる仕組みがあればよいのではと考え、クラウドファンディングを活用してアップルブランド「BeComme」を立ち上げました。「BeComme」で取り扱う商品は誰もが購入しやすいように靴下を選び、その収益で犬・猫の殺処分課題解決を支援しています。人は誰しも社会課題に関心を寄せています。しかしながら、ボランティアに参加したり、募金をしたりといった

直接的な活動はなかなか容易ではありません。ですが、靴下の購入ならどう感じるでしょうか。「私にもできる社会貢献!」と、参画のハードルが下がるのではないのでしょうか。「BeComme」は人と社会課題をつなげて、その改善に向かうモデルとして誕生したプロジェクトブランドで、購入者は、社会課題の解決に間接的に参加します。「BeComme」という存在が、多くの方々にとって、犬・猫の殺処分問題に関心をもちたための架け橋になればと思います。これからもブランドを通じて、社会課題を解決したいという多くの願いをカタチにするつもりです。

その他の取り組み

・地域資源と知的資源を双方向サイクルで活用する社会連携活動拠点「RVC」※
学内外の諸機関と積極的に連携し、真に持続可能な社会の実現をめざす価値創造を通じ、地域社会の発展のために貢献するプラットフォームとなること、既存の慣習にとらわれないと考える。既存の慣習にとらわれないと考える。



ことなく、社会変革を担う人間を育てることを基本方針としています。
※RVC: Ryukoku Extension Center
・ビジネスプランコンテスト「プレゼン龍(ドラゴン)」で学生ベンチャーを発掘育成
「プレゼン龍(ドラゴン)」は、チャレンジ精神や創造性に富む人材を輩出する学生ベンチャー育成事業の一環として開催。本学の学生は誰でも出場可能。ビジネスプランをプレゼンテーション形式で競い、グランプリをめざします。



龍谷大学

〒612-8577 京都府京都市伏見区深草塚本町67 入試部 TEL 0570-017887(ナビダイヤル) <https://www.ryukoku.ac.jp/>

多様性を尊重し、人々とともに
目の前で起きている課題と向き合う

余剰・廃棄衣料で
雑貨をつくり
循環型の社会へ貢献

・今までにない循環の仕組みづくりで社会に貢献したい
経営学部 藤田政広さん



私が学生ベンチャー団体「京結える」を立ち上げたきっかけは、2年生のときに、鴨川の川べりでたくさん溜まった廃棄物を見たことです。ゴミ拾いは大切なことですが、根本的にゴミを減らすことが必要ではないか。そんな気づきから活動を始めました。今では、廃棄・余剰資源を活用した素材開発と、まちづくりをテーマにした取り組みを行っています。



今回の「サステナブルプロハスフェスタ」(イオンモール京都桂川)で販売した商品は、余剰・廃棄衣料を細かく断裁した後にアップサイクルした雑貨です。すでに事業化しており、原料になる素材提供や粉砕に協力してくださる企業などとの連携のうえで成り立っています。地域、住民、行政がつながる地域循環を生み出す事業の一つです。
私たちは「日常に彩りの循環を」をミッションに、日常で廃棄問題を



社会課題の解決には個人、サークル、NPO法人など、多様な形で多くの人が取り組んでいます。しかし、こうした課題はメディアでクロージングアップされてもその時限りになりがちです。私は、幼い頃から犬・猫の殺処分をなんとかしたいと考えており、特に学生時代には「誰もが継続的にこの課題に取り組める方法はないか?」といういろいろと模索しました。



・クラウドファンディングで立ち上げたアップルブランドで、社会課題の改善に参画するハードルを下げる
国際学部卒 宮田知己さん

犬・猫の殺処分問題
改善に取り組み
アップルブランド

実感できる仕組みづくりによる社会貢献をめざしています。循環型の未来社会をつくるには、現場はもちろん、法律などさまざまなことが関わります。単に事業を進めるだけでなく、全体を見通せる活動を実践したいと考えています。